

# 子供の声が響き渡る中川原に



▲平成23年3月20日をもって64年の歴史に幕が降りました。

## 中川原中学閉校記念事業実行委員会 梶委員長

旧中川原村が設立した64年の歴史を誇る中川原中学校が閉校されるにあたり、3月20日(日)の閉校式における梶昌知様(前連合町内会長)の挨拶をここに紹介させていただきます。

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホームの郷会  
 淡路ふくろうの郷会  
 広報委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原28番地1  
 TEL:0799-25-8550  
 FAX:0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

## 2面 東日本大震災へのふくろうの郷取り組み

このたびの東日本大震災で被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。当施設でも県等に被災された方を受入れる申し出を行っております。一人ひとりができることを考えて支援の輪を広げたいと考えています。

本日はお忙しい中、地域の方、先生方、PTAの方、それぞれ関係者の方、中川原中学校の閉校式にご臨席を賜り誠にありがとうございます。この度の東日本大震災の被災者に対し、お見舞い申し上げます。この中学校は昭和22年中川原村立中学校として創立され、昭和23年に今の保育所あたりに平屋建ての新校舎が建設され、以後昭和26年にこの地に2階建て木造校舎落成移転してきた経過があります。生徒も当初・昭和23年卒業生は18名で、最も多かった昭和40年卒業生72名を期に徐々に減り、本年最後の卒業生7名を送ること



▲3月20日閉校式にて梶昌知委員長

になりまして。これまで64年間で2,034名が巣立って行き閉校となるのが寂しい限りです。今後はこの学校を軸として中川原町が発展するよう、市長さん初め、教育委員会関係方々の寛大なお心遣いをいただき、地域主体にしたコミュニティの場として使わせていただき、中川原町の活性化になるよ

う町民の意見を反映した計画をしております。将来の中川原の地に子供の声が多く響き渡る行政をお願い申し上げます。単ですが挨拶とさせていただきます。

閉校にあたり、職員の中にも中川原中学校卒業生がいます。在校時の思い出を語ってもらいました。

昼休みに、いつも教頭先生が教室に来て「おい、キャッチボールせんか」と声をかけてくれて、生徒は「よっしゃせんか」と言って、一緒にしていました。

(生活援助：角村)

部活動のテニスが思い出に残っています。

校庭で夏の暑さが大変だったけど、楽しかったことを思い出します。

(生活援助：酒井)

私が一番好きだった景色は桜並木です。

毎年春になると桜ヶ丘中学と称されるほどの満開の桜が咲きます。その桜並木が本当に好きでした。

(生活援助：梶田)

# 被災者の受け入れを準備

淡路ふくろうの郷、いこいの村(京都)、ななふく苑(埼玉)など全国のろう者、聴障者への配慮した九カ所の老人ホームでは被災地でお困りの皆さまの受け入れを準備しています。

今回の震災は私たちが経験し、未曾有の大震災と言われた阪神淡路大震災を遥かに上回ったものであり、刻々と被害の状況が明らかになってきました。家々が津波でござり流され、肝心の行政機能まで麻痺し状況がつかめないこと、追い打ちをかけるように福島原発の事故が不安を更に大きくしています。

## ■784ヶ所が被災

厚生労働省の調べによれば、現在把握できている範囲でも、老人福祉施設など合計784ヶ所が被災し、職員、利用者など人的被害も老人福祉施設で死亡112人行方不明147人等となっています。(4月4日福祉新聞参照)

要介護者を受け入れる福祉避難所が設置されて

いても職員不足などで受け入れ体制が整っていない所も多く、家に取り残され、不慣れた生活を強いられる人も多くいます。こうした中で福祉関係団体の支援活動も始まっています。

「全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会」では施設での保護・支援の必要な高齢などろう者の受け入れの準備を進めています。早速、ふくろうの郷では当面施設入所2名、短期入所2名の受入を表明しました。希望が増えればさらに受入を準備します。募金活動も開始しています。

## ■辛さを希望へと

阪神淡路大震災で家を

なくしたろう者の願いがきっかけになり、仲間の力強い運動により「淡路ふくろうの郷」が建設されました。全国から力強い応援を頂きました。権利がはく奪された中で生活してきたろう者の苦しさを知っている私たちは伝えたい。苦しみ、辛さは喜び、幸せに変えていくためである。暗闇は必ず「希望」に通じるものであること。災害は現状を明らかにし、福祉の飛躍につながることを。それを兵庫の老人ホーム建設運動が明らかにしたこと(総務主任：辻 愛子)



お困りの方は淡路ふくろうの郷に。いつでも被災者の皆さんと繋がっています。

# リレーエッセイ 評議員 星 百合香

このたびの東北地方太平洋沖地震の被害状況をニュースで見聞きするたびに胸がさける思いです。阪神淡路大震災では全国の方の仲間に支えられ、支援いただきました。兵庫は震災をきっかけにたくさんの方の運動を展開してきました。「淡路ふくろうの郷」の建設もその一つです。

今、17年前の兵庫の気持ちを出し、兵庫だからこそ出来る支援をしっかりとしていきたいと思えます。

今日も、自宅の窓から淡路島が見えています。以前はあまり気にも留めなかった景色です。今は身近な島、風景になりました。この変化は：もちろん！ふくろうの郷の存在です。橋が架かり交通の便はよくなったものの、なかなか足を運ぶ事のない淡路でしたが、ふくろうの郷がオープンし、行事があるたびに橋渡る機会が増えてきました。

建設運動時には大矢施設長が住まいされていた垂水で、次々と提案される募金活動にサークル員として参加し、「負けへんであらう」発行時には何もわからないまま、小松さんと一緒に編集委員を経験させていただきました。どんな活動の時にも「ふくろうの郷」がありました。そして

昨年9月より「社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会」の評議員として、新たな関わりが始まりました。

今年が開所5周年。これから10年、20年と益々元気な「ふくろうの郷」でありますよう、又、今後は「ふくろうの郷」が拠点となり、県下に聴覚障害者が安心して利用できる場が増えていくことを願っています。



評議員 星 百合香

### こんなサービス欲しいな 地域の声



▲たくさんのご意見をいただきました。

3月12日(土)、今年も中川原地区民生・児童委員会主催の独居老人食事が淡路ふくろうの郷で開かれました。食事会終了後は、今年は4つのグループに分かれて「中川原中学校の校舎を利用した『地域ふれあいセンター構想』に何を望むか？」をテーマに、みなさんからご意見をお聞きしました。その中の一部をご紹介します。

●市から無料の入浴券をもらっているのだが、五色町の温泉や洲本市内の銭湯にタクシーで行った場合、三千円くらいかかってしまうので行きたくても行けない。そんな時に安く送迎してもらえると助かる。

●世代を超えた交流ができる場にしてほしい。

●誰でも行きやすい雰囲気を作してほしい。

●春には桜がきれいなので地域の癒しの場になってほしい。

●温泉があればいいな。(夢のような話だが)

●喫茶店があると嬉しい。(中学校のグラウンドでゲートボールをした後に休憩できるので)

●ふれあいセンターは、地元のニーズをきっちり調査し、且つ、理解を得た上で始めてほしい。

地域の大切な中学校が今年の3月末で閉校になってしまったことに伴い、その校舎を利用した「地域ふれあいセンター」立ち上げの要望書を現在、中川原町とふくろうの郷が合同で洲本市に提出しています。

16年前の阪神淡路大震災でも今回の東日本大震災でも大きく注目されているのが、地域コミュニティの大切さ、素晴らしさです。私たちが暮らす淡路島はそのような地域力が比較的高い土地柄です。しかし、今回の座談会からも分かるように、まだまだ不便な思い、寂しい思いをされている方はたくさんいらっしゃいます。

お年寄りから子供たちまで、すべての方が今よりもますます安心で、にぎやかな生活が送れること、それが「地域ふれあいセンター」が目指すことです。淡路ふくろうの郷も地域の一員として、加わって行きたいと思っています。

(総務・森岡)

### 「司寿司」ふくろう店」開店



▲カウンターで食べるお寿司は絶品。

明石市にあります「司寿司(つかさずし)」のご主人、湯野義人様が3月23日にふくろうの郷へ出張開店してくださいました。

担当職員は「参加される入所者さんに本当のお寿司屋さんに来たような雰囲気作りをとても大切に準備しました」というように、喫茶コーナーは本格的なお寿司屋さんに変身。

とつてもおいしいお寿司で、注文も殺到。

普段ユニットからなかなか出

られなかった入所者さんもたくさん注文されていました。

参加された方から「いつもの雰囲気とは違ってゆっくりと食べるのができました」との感想を聴けました。

湯野義人様、本当にありがとうございました。

(生活援助員：神代)



▲お寿司好きの勝楽夫婦。



▲握りたてのお寿司の前で。

# 地域を語る

## 第28回 能満山・松亀寺の縁起

(中川原町三木田)  
住職 平松秀文

松亀寺(洲本市中川原町三木田)は真言宗大覚寺派の寺院で、淡路四国八十八か所霊場第79番札所でもある。

開山は元禄年間、僧頼永による。もとは現在地より東の三木田字茂原(通称東山または岡山)にあったものをこの地に移す。この地に移されたのは、明確には分かっていないが、開山の住職頼永が元禄六年(一六九三)九月二十九日に死去されていることからこの時代にこの地に移されたと思われる。

寺記に住職が寺地を他所に移そうと思っていたところ、ある夜に夢に天道があらわれて、「寺を他所に移そうと思っているならば、ここより西側に霊地があり、四神相応にして仏像永久の地になる。正月元

旦に速やかに至れば小亀があらわれるだろう、そこが求める地である」と告げると夢が覚めた。元旦に山を巡っていると亀が松葉を啣えてあらわれた。そこで、この地に寺をうつし、「松亀寺」と称したと開山のいわれが伝えられている。

慶長四年(一五五九)の銘がのこる大塔婆が残されており、東山に建立された当時の物と思われる。

本尊は、安阿弥作の大日如来で、「安田の大日」として信仰された。牛馬の安産の守護仏として信仰されている。



▲能満山・松亀寺

## ふくろうの郷の空に鯉のぼり



▲ふくろうの郷で泳いでいます。

先月「伊達直人」様より寄贈していただいた鯉のぼりを地域交流会の皆様が竹を準備してくださり、上げていただきました。本当にありがとうございます。

## 参加お待ちしております「5周年記念のつどい」

淡路ふくろうの郷開所5周年記念のつどいが5月28日(土)午後から、中川原中学校、ふくろうの郷を会場に開かれます。

このつどいは、ふくろうの郷5周年を記念して、関係者が一同につどい、喜びを分かち合うとともに5年の歩みを振り返り、今後の更なる発展を願う出発の場とするものです。

第1部は記念式典、第2部は記念講演で五色のたかたクリニック院長の高田裕医師を講師に迎え、「地域医療に取り組んで」と題して、先生の在宅ホスピス等の取り組みをお話ししていただくなかで、今後の私たちの活動や地域との関わりのある方等を学びたいと思えます。第3部は会場をふくろうの郷に移し、

祝賀会を行い、会食を楽しみながら5年間の思い出などを振り返ります。地域の方々を始め、多くの人たちの参加でつどいが盛り上がりますようお願いいたします。(事務長：八木)

## ふくろう喫茶よりお知らせ

ふくろう喫茶でふくろうの郷の入所者さんと、楽しい時間を過ごしませんか。

◆開催日時：5月15日(日)  
13:00~15:00

コーヒー・ココア・紅茶・カルピスなど 1杯¥200より



## 淡路ふくろうの郷 開所5周年記念のつどい

日時：平成23年5月28日(土)  
午後1時~  
場所：淡路ふくろうの郷  
中川原中学校  
内容：式典・記念講演・  
記念パーティ  
講師：講師：高田裕氏  
(たかたクリニック院長)